

令和6年度全国学力・学習状況調査における

北九州市立 筒井小 小学校の結果分析と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、6年生を対象として、令和6年4月18日（木）に、「教科（国語、算数）に関する調査」、文部科学省が指定した日（4月10日から4月30日の間）に「児童質問調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にしていただきたいと思います。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

1. 調査の目的

- (1) 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- (3) そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2. 調査内容

- (1) 教科に関する調査（国語、算数）

教科に関する調査（国語、算数）
① 身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等
② 知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等に関わる内容

※調査では、上記①と②を一体的に問うこととする。

- (2) 児童質問紙調査

児童質問紙調査
○ 学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

3. 教科に関する調査結果の概要

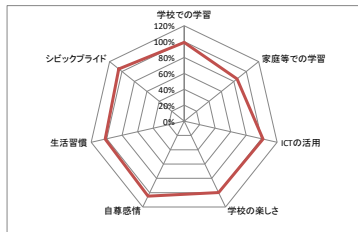
- (1) 全国・本市の学力調査（国語、算数）の結果

本年度の結果	国語		算数	
	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率
本市	9.3	66	9.6	60
全国	9.5	68	10.1	63

- (2) 本校の学力調査結果の分析

	全体的な傾向や特徴など	「書くこと」の領域は、正答率が高かった。しかし、「話すこと・聞くこと」「読むこと」の領域に関しては、正答率がやや低かった。	全国平均正答率との比較 上回っている
	よくできた問題	日常的に読書に親しみ、読書が自分の考えを広げることに役立つことに気付くことができるかどうかみる問題	
	努力が必要な問題	人物像を具体的に想像することができるかどうかみる問題	
算数	全体的な傾向や特徴など	「数と計算」「図形」「変化と関係」の領域は、正答率が高かった。しかし、「データの活用」の領域に関しては、正答率がやや低かった。	全国平均正答率との比較 上回っている
	よくできた問題	示された情報に基づき、表から必要な数値を読み取って式に表し、基準値を超えるかどうかを判断できるかどうかをみる問題	
	努力が必要な問題	円グラフの特徴を理解し、割合を読み取ることができるかどうかをみる問題	

4. 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問調査結果の概要



質問調査の結果分析
・「自分には、よいところがあると思いますか」「人の役に立つ人間になりたいと思いますか」が全国平均を上回っており、子どもたちの自己肯定感の高まりがみられた。「地域や社会をよくするために何かしてみたいと思いますか」も全国平均を上回っており、シビックプライドの高まりも見られた。また、「授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組み立てなどを工夫して発表していましたか」「授業で、PC・タブレットなどのICT機器をどの程度使いましたか」も全国平均を上回っており、考えを発表する工夫やICTの活用についても高まりが見られた。
・一方、課題として、「学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか」については全国平均を下回っていた。家庭学習における自主学習の推進等にも力を入れていく必要がある。

5. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

- ① 教科に関する取組

・どの授業も問題解決的な学習を意識した学習展開を行い、「話し合う活動」と「書く活動」を効果的に位置付ける。

・タブレット活用については、各教科等でICTを効果的に活用する場面をさらに増やしていく。「個別最適な学び」と「協働的な学び」を一体的に行い、「主体的・対話的で深い学び」を実現する授業実践を推進する。

- ② 家庭生活習慣等に関する取組

・「全学年で年末を家庭に持ち帰る日を設定し、家庭学習の取組を進めているので、今後も取組の継続・拡充を図る。

また、「自主学習チャレンジ週間」（年2回実施）の取組では、「がんばりカード」の活用等によって自主学習に対する子どもたちの意識を高め、日々の家庭等での学習の充実につなげるようにしていく。